

**第 8 回東京都地域危険度測定調査委員会**  
**平成 28 年度（第 1 回） 議事要旨**

日 時 2016 年 6 月 24 日(金)15:00～17:00

場 所 東京都第一本庁舎 25 階 108・109 会議室

出席者 【委員・専門委員】

中林委員、荏本委員、加藤委員、伊村委員、市古委員、稲垣委員、大佛委員、  
樋本専門委員、山本専門委員、中村専門委員（代理者）、山下専門委員

【関係機関】

小川課長、松岡課長、坂本課長、山下課長、清水課長

（議事内容）

委員会では、議題に沿って以下のような内容の検討や意見交換が行われた。

1. 地域危険度測定調査の実施、公表の時期について

○事務局より今後の地域危険度測定調査の実施スケジュール案及び平成 28 年度検討スケジュール案について説明

- ・ （委員了承）

2. 建物倒壊危険度の測定について

○事務局より建物倒壊危険度の平成 28 年度の検討作業について説明

（耐震性能指標を考慮した測定手法の改良について）

- ・ 今年度の検討予定項目ということで、昨年度の建物部会でもいろいろ検討を行ったが、測定方法の変更を検討するということだが、具体的にどういうことをしようとしているのか。  
→耐震診断の結果の  $I_s$  値、 $I_w$  値毎の被害関数を作成し、その適用を検討している。被害関数まで作る必要はないとの意見もあるので、部会で検討したい。
- ・  $I_s$  値、 $I_w$  値のデータは収集できる見通しはたったのか。  
→全体の量から見れば微々たるものだが、集まってきている。
- ・ 耐震診断によって耐震性を満たしているものの割合を、耐震診断していないものについても同じ性能分布であるとみなして掛けるのが考えられる方法だが、全体で一律に掛けるのか、区市町別に検討できるのか？  
→区部多摩部の分けが妥当だと考えている。
- ・ データの対象はどのような建物か。ランダムサンプリングか、もともと弱そうなものか。新しい建物が入っていない可能性がある。内容を精査すべき。  
→簡易診断ではなく、一般診断をしたものを対象としているので、旧耐震の建物がほとんどである。
- ・ 一時診断（簡易）、二次診断（詳細）の 2 段階で実施している区市町のデータが入手できるとよいが。

（大規模建築物の安全性を反映した測定の実施について）

- ・ 一番の課題は、棟数評価か延床面積評価かである。非木造の大規模建築物の取扱いが課題。

- ・ 建物倒壊危険度が、何を評価し、何に生かすかという東京都の方針が示されれば評価方法が決まる。  
→棟数を残しつつ、延床面積も並行して、違いなども示したい。
- ・ 60m以下の大きい建物も結構あるので、60m以下の建物の被害関数は、もう少しグラデーションを付けた方がいい。  
→現状としては60mを超える建物と免震建物は安全とみなして、延床面積から除外し、残ったものに被害関数を適用している。
- ・ GISと固定資産のデータとの整合を確認しながら、精査してほしい。

### 3. 火災危険度の測定について

#### ○事務局より火災危険度の平成28年度の検討作業について説明

- ・ 耐火構造の建物からの出火について、水平方向と上下方向の延焼の可能性を検討しているということか。  
→耐火造からの出火、延焼を適正に評価するのが今回の目標。
- ・ 耐火から出火した時、周辺に影響を及ぼすものはきちんとカウントしようという考え。輻射熱設定など、安全率をどのくらいにするか議論の余地がある。
- ・ 耐火造建物の開口部の位置関係を整理して燃え広がり方の安全率を出せないか。
- ・ 輻射熱  $150\text{kw}/\text{m}^2$  は新しい設定値か。  
→通常の防災設計に使われる数値である。  
→室内のものが、現象的に延焼する限界値なのか。  
→限界値ではなく、一般的に建物火災で部屋の中が正規火災になると大体  $1000^\circ\text{C}$  ( $150\text{kw}/\text{m}^2$ ) 程度になるという経験値である。
- ・ 要はこれまで耐火造建物も全部同じ扱いだったものを、燃やし過ぎているので、ゼロにはできないが限定的になるのではないかということから始まった取組。部会で議論を継続していきたい。

### 4. 災害時活動困難度の測定について

#### ○事務局より災害時活動困難度の平成28年度の検討作業について説明

- ・ 道路沿道の建物倒壊による閉塞確率など、どのような検討をしているのか。  
→GISを用いたシミュレーションにより確率計算し、反映している。
- ・ 沿道の建物の建築年次のデータをランダムに割り振って、何回かシミュレーションして閉塞率計算をしているということか。  
→1000回計算した平均値である。
- ・ 閉塞しなければ問題ないということにならないよう、基盤整備が必要だという課題の軸を忘れないように検討する必要がある。

### 5. その他

- ・ 土地利用現況調査の耐火、準耐火の精度の検証もしておいたほうがよい。
- ・ 消防庁で使っている市街地のデータとの違い等、一度実態を振り返ってみることも含めて今年度のスタートとしたい。

以上